

専門医活動レポート

多職種連携の中で専門医として磨かれる

米山歯科クリニック 米山武義

私は同じ専門医の栗原歯科医師とともに、静岡県三島市で多職種連携としての口腔ケアネットワークを2005年に立ち上げました。最初は他の職種の仕事（業務）内容がわからず、会話にぎこちなさが目立ちましたが“食の支援”“口腔のケア”という共通テーマに思いを寄せるうちに壁が一つずつなくなっていき、心地よい人間関係が醸成されていきました。この経験によって職種を越えて率直に治療に関する、あるいは療養上の相談ができるようになりました。

ネットワークでは1～2ヵ月に1回、役員会を開き、3ヵ月ごとの対外的に開かれた多職種の勉強会の打ち合わせを行っています。

「どうしたら連携がスムーズになるか」「ストレスの少ない患者さんの紹介状について」「誤嚥性肺炎を予防する地域での取り組み」等々、議論が始まるとあっという間に3時間ほど経過してしまいます。この過程で各職種とも同じ悩みをもっていることに気づき、信頼関係がさらに深まっていきます。私は専門医こそ、地域における職種間の橋渡しの役割を担うべきだと強く感じています。平らな関係の中で専門医として磨かれていく自分が嬉しく感じます。



老年歯科専門医の活動レポート

小向井歯科クリニック 小向井英紀

私は歯学部在学中から高齢者歯科医療に興味をもち、卒後も口腔外科で高齢者歯科診療に必須の全身管理を学び、その後も離島で訪問診療を含む歯科診療に携わったり、特養や老健を併設する病院歯科で勤務し、病院や介護施設で口腔ケアシステムの立ち上げを経験したりしました。そして開業後も学会活動を行いながら、県歯科医師会の高齢者部門にも所属し、地域歯科保健活動を展開してきました。

私の老年歯科専門医としての基本理念は「歯科からの健康長寿」です。その達成のために、個人としては、臨床医として一般高齢者の歯科治療だけでなく、積極的に要介護高齢者の訪問歯科診療や介護予防も行うこと、また学会活動として研究や調査で得られた知見や学会参加で得られた情報を発表、発信すること、そして組織の一員としては、歯科医師会活動として地域保健活動を展開し、歯科口腔保健衛生事業、地域包括ケアシステムを見据えた多職種連携強化、高齢者歯科診療で活躍できる人材育成、県民への啓発活動等を行うことが重要であると考えております。

今後もさらに老年歯科専門医として研鑽を積み、この分野でリーダーシップを発揮できるよう精進していきたいと思う所存です。



居家で寝たきりの要介護高齢者に歯科治療を施す筆者

新規 専門医認定者の声

谷口裕重先生

(藤田保健衛生大学医学部歯科口腔外科)

私が老年歯科専門医を目指したきっかけは、専門である摂食嚥下リハビリテーションの知識を向上させることはもちろんのこと、認知症、廃用、多剤服用などの要素が絡み、複雑化している老年歯科医学に対応できる歯科医師になりたいと考えたからです。

専門医の勉強をする中で、全身管理に関する知識とともに、病院、在宅、施設でのシームレスな歯科治療およびリハビリテーションを提供するには、単一職種での対応は困難であることを改めて感じました。

今後は、一層のモチベーションをもって臨床、研究、教育に当たると同時に、後輩が私たちをみて「老年歯科専門医を目指したい」と思うような歯科医師になれるよう、さらなる研鑽を積んでいきたいと思っております。



大和泰子先生

(医療法人乾洋会タクデンタルクリニック)

専門医を目指す皆様へ。

私は歯科医歴10年目の勤務医です。2017年11月12日に行われた日本老年歯科医学会専門医の認定試験に合格することができました。数年前までは本学会の研修機関に所属しており、現在は某歯科医院で在宅・外来診療を行っています。患者さんの多くが有病者で、それぞれに合ったベストな治療方針を見つけるのに日々精進の毎日です。

さて専門医の認定試験についてですが、受験するためには症例報告書が必要で、特に注意した点や改善すべき点についてアピールしました。筆記試験は口腔外科学や老年医学を中心とした内容であり、私たちが有するに必要な基本問題が多かったです。

まだまだ未熟者で勉強の毎日ですが、患者さんの幸せへの手助けが少しでもできるように今後も謙虚な姿勢で治療に取り組んでいきたいと思っております。

